

令和7年度第2回大阪府立博物館等指定管理者評価委員会 議事録

日 時：令和8年1月30日（金） 10時00分から12時00分

場 所：大阪府立弥生文化博物館 1階会議室（オンライン併用）

出席者：南委員、羽森委員、川喜多委員、長友委員、福光委員（リモート）
（事務局）大阪府教育庁文化財保護課
（指定管理者）AKN 共同事業体

<開 会>

事務局より、5名の委員の出席があり、規則に定める定足数（委員総数 5名の過半数の出席）を満たし、委員会が成立していることを報告。

<議 事>

- （1）弥生文化博物館のⅠ及びⅡ
- （2）近つ飛鳥博物館のⅠ及びⅡ
- （3）弥生文化博物館及び近つ飛鳥博物館のⅢ

事務局より評価票（案）に基づき、議事（1）～（3）を説明。

（意見等）

羽森：弥生文化博物館の「Ⅰ（1）施設の設置目的および管理運営方針」について、弥生文化博物館研究報告は定期的に刊行しているのか。また、寄稿者は館内学芸員か、館外の研究者か。

指定管理者：研究報告は不定期に刊行している。また、寄稿者は館内学芸員だけでなく、テーマによっては館外研究者も含まれ、既刊の報告の中には学史的に重要な位置を占める論考も多数ある。

羽森：大学では、ワーキング・ペーパーやリサーチ・レターなど、大学ごとで呼称は異なるが、気軽に研究成果を報告できる媒体がある。当館においても、そのような館内外の調査研究者による発表の機会を提供してもよいのではないかと思う。

長友：こうした出版物は、より広く参照してもらえるように、PDF化することも検討していただきたい。デジタルデータとして公開されれば、論文の被引用数がカウントされる機能もあるので、それを評価対象にもできると思う。

長友：近つ飛鳥博物館と弥生文化博物館の「Ⅰ（3）利用者の増加を図るための具体的手法・効果」について、両館ともに小学生と年配の方の利用者は多いが、その中間の年齢層の利用者が少ないことは課題であり、工夫を検討していただきたい。

羽森：近つ飛鳥博物館の「Ⅰ（3）利用者の増加を図るための具体的手法・効果」について、どのような経緯で韓国の研究者との共同シンポジウムを開催したのか。また、今後も継続するのか。

指定管理者：「百済王氏」という展示内容に関連した企画として実施した。博物館単独で海外研究者を招請して開催することは厳しいが、韓国文化院や領事館との関係構築な

ども継続し、今後も国際的なシンポジウムや講演会を開催したい。

南：ジャパンファウンデーション（国際交流基金）など、国際交流への助成を行う団体もあるので、こうした外部助成金の申請も検討してほしい。

長友：予算的に厳しいなかで、専門性の高い企画を催していることが評価できる。また、研究者だけでなく、地域住民向けの講座開設や万博を利用した海外観光客の呼び込み、障がい者対応など様々な人を巻き込んで、来館者数を増加させていることは、博物館の本質を捉えた運営であると思う。

南：「I（2）平等な利用を図るための具体的手法・効果」の高齢者や障がい者など社会的弱者への支援の評価について、対応実績の有無に基づいて弥生博では「S」、近頃は「A」とあるが、取り組み姿勢が同様であれば、両館ともに「S」評価でよいと考える。

羽森：両館を同じ評価とすることに同意。ほか、大阪府の障がい者支援センターなどとの連携、博物館の障がい者対応に関する情報の周知にさらに取り組むことが期待される。

事務局：評価について、ご意見を踏まえ事務局で検討する。

事務局：先日の大阪府議会教育常任委員会において教育庁所管施設の目標値設定の考え方について質疑質問を通して適切な目標設定の在り方について指摘がなされた。来年度以降の目標については、達成できる目標値に拘ることなく、これまでの実績も踏まえ適切でチャレンジな目標値設定を検討するよう改めてお願いする。

長友：単純に数値を追い求めるのではなく、社会状況や生活の変化に応じた、多角的な検討が必要である。コロナ前後で人びとの生活の仕方・行動が変化している。博物館においても、資料のデジタルコンテンツの公開が進められる中で、単純に博物館への来館者をカウントするだけではなく、インターネットの閲覧数もカウントすべきではないか。また、府施策との整合性に関して、中・高校の授業料無償化の実施といった教育に注力していることが大阪府の特色として挙げられる。博物館は教育に貢献できる施設であるので、府施策と寄り添った、中高生に響くような教育的アプローチを模索すべきである。

南：博物館法改正を受けて、デジタルアーカイブ化事業や地域連携を推進していくなか、今後はこれらを実績として評価できる基準作りも必要になってくる。

南：今後の運営について、多岐にわたり提言いただいた。これらを踏まえ、施設所管課と指定管理者とで検討の上、評価票案を修正し、最終的な評価票を作成するという形でのよろしいか。（全員：異議なし）

事務局：今回の意見を踏まえ、事務局で評価票案の追記並びに修正をする。本日の議事要旨については、事務局でまとめたものを委員長に最終確認いただき成案とするということでのよろしいか。（全員：異議なし）

<閉 会>